

なせ社協

発行 名瀬地区社会福祉協議会
会長 新井 敏行

名瀬地区の社会福祉協議会では、事業として、社会福祉大会、社会を明るくする運動、ゲートボール大会、ふれあいグランドゴルフ大会、ボウリング大会、子育て支援（赤ちゃん教室・モーモークラブ・育児講座）、高齢者食事会、いきいき健康セミナー、ネットワーク訪問を行っています。その他、様々なボランティアグループ等に助成しています。

第12回 名瀬地区社会福祉大会(定期総会と福祉講座)

名瀬地区社会福祉協議会 26年度収支決算書

収入の部

科目	決算額	説明
市社協補助金	50,000	組織運営事業支援
区社協補助金	384,890	各種事業活動支援
分担金	850,000	分担金
寄付金	30,000	
預金利子	51	普通預金
前年度繰越金	729,209	
合計額	2,044,150	

支出の部

科目	決算額	説明
事業費	486,152	各種事業活動費
広報・研修費	101,360	「なせ社協」発行等
事務費	25,923	事務用品・交通費等
会議費	18,553	諸会議費
渉外費	3,000	慶弔費、渉外活動費
助成金	440,000	各種団体の活動支援
会費	189,800	区社協一般・世帯会費
雑費	0	
予備費	0	
次年度繰越金	779,362	
合計額	2,044,150	

第一部 定期総会

5月24日(日)、午後1時30分より、名瀬地域ケアプラザにて、名瀬地区社会福祉大会が開催されました。

新井会長の議事進行により、26年度事業報告・決算報告・会計監査報告、27年度事業計画・予算が提出され、いずれの議案も全会一致で承認されました。

第二部 講演会

第二部では、横浜舞岡病院 横浜市認知症疾患医療センター 副センター長の藤川美登里医師を講師にお迎えし、認知症の正しい知識について講演をしていただきました。題して「物忘れが気になったら」～認知症と年相応の物忘れの違いについて～。

多くの症例を挙げてのわかりやすい説明に、参加された105名の皆さんも真剣に耳を傾けていらっしゃいました。



●加齢による物忘れ
体験の流れ



●認知症
体験の流れ



第21回 いきいき健康セミナー

3月27日(金)、会場は昨年同様名瀬小学校の調理室。新井会長のあいさつの後は、戸塚ヘルスメイト(食生活改善委員会)の皆さんのご指導で、お一人暮らし高齢者の皆さんとスタッフ合わせて32名(保健活動推進員の皆さん、区社協の牧内さんも加わり)が4テーブルに分かれ、和気あいあいと調理を楽しみました。メニューは、白飯、長芋の肉巻きソテー、小松菜の変わり白和え、りんごと薩摩芋の重ね煮、具沢山のスープでした。特に長芋の肉巻きソテーは、手軽で美味しいと好評でした。

調理の後は、名瀬地域ケアプラザの樋口保健師さんによる講話でした。高齢者の低栄養が近年問題になっているそうで、お野菜だけでなく、しっかり肉、魚、卵等のたんぱく質を摂り、病気やけがに強い体を作りましょうということでした。



第26回 名瀬地区老人福祉大会



6月7日(日)、午後1時より名瀬小学校体育館において、名瀬地区老人福祉大会が開催されました。

参加されたのは、第一みのり会、第二みのり会、第三みのり会、シルバークラブ、きずなクラブ、寿栄会、名瀬ホームの皆さん。

今年はご自慢の喉を披露される方も多く、会場では一緒に口ずさんだり、手拍子で盛り上げる光景が見られ、楽しい集いとなりました。

写真：左上から「第一みのり会」「シルバークラブ」「第三みのり会」
左下から「第二みのり会」「きずなクラブ」「寿栄会」「名瀬ホーム」

映画のつとい 《フラガール》

6月16日(火) ボランティア連絡会主催の「映画会」を第二町内会館にて開催しました。今回の当番グループは「ひだまりサロン名瀬(代表 荒木三和子)」の皆さんでした。参加者は利用者10名、ボランティアの皆さん35名合計45名。 題目は「フラガール」で昭和40年福島県いわき市の炭坑の町が次々と閉山を迎え、レジャー施設で活気を取り戻そうとする若い女の子たちとまだ炭坑の町を続ける人たちとの戦いや苛酷な練習等々、笑いの中に感動があり涙々の連続でした。最後には町の全員の心が一つになり、レジャー施設「常磐ハワイアンセンター(現 スパリゾートハワイアンズ)」が誕生した物語でした。

4年前、東日本大震災に遭いながらもフラダンスで被災地慰問したというニュースに感動された方も多かったことと思います。



名瀬地域ケアフラザエリア ハートプラン 「健康マップ」お披露目会

こんなにたくさん！地域の見どころ

26年度、名瀬地域ケアフラザエリア地区別計画推進委員会は、公募で集まっていた地域の皆さん(マップ作業部会)と何度も会議を重ね、「見どころ健康マップ」と「福祉保健マップ」(同じ用紙の裏表カラー刷り)を作成し、今年5月には各戸配付しました。7月7日には、そのマップを地域の皆様の健康づくりと地域の魅力の発見に役立てていただこうと、お披露目会が名瀬地域ケアフラザで開かれました。



参加者約60名の皆様に、マップに掲載されている20カ所の見どころポイントのスライドや、名瀬川の源流から上矢部の鯉が淵までの10カ所を実際に作業部会の皆さんが歩いて動画にまとめ、BGM、ナレーションを付けていただきました。名所旧跡だけではなく、水辺に咲くショウブや、名瀬川にすむ亀や鯉などの生き物たちが生き生きと映し出されていました。神社仏閣、季節の花、公園めぐりなど、目的に合わせて歩くコースも紹介されましたが、まだまだ、色々な活用の仕方が期待されます。



涼くなったら、このマップを持って、ウォーキングに出かけませんか？季節ごとに、コースごとに違った表情の名瀬の自然に出会えるかもしれません。

第65回 名瀬地区 社会を明るくする運動 7月25日

東日本大震災の現地を訪ねて 忘れまい悲惨さと絆の大切さを



連日の猛暑にも拘わらず、名瀬第二町内会館は満員。新井敏行社協会長、大山勲夫連町会長の主催者挨拶、区社会福祉協議会島本洋一事務局長の来賓挨拶に次いで、「危険ドラッグ」のビデオ視聴後、昨年11月の被災地復興支援事業「とつかボランティアバス」の事務局、牧内豊さんが現地釜石市鶴住居(うのすまい)の写真や現地の方の声を録音を使って報告されました。

3か月の乳飲み子の母親の必死さが通じて3日目に病院に入れて助かったが、しかしこの子のお兄ちゃんはどうとう帰っては来なかった話に会場からは啜り泣きの声が聞こえ、「子どもたちが真っ暗な長い長いトンネルの壁を手探りで避難した時の怖さや辛さ」という話にもハンカチ



を目に当てる方がたくさんおられました。「忘れがちになる悲惨さや予測のつかない災害について考え、お互いの命を守るには人と人との絆が大切だということを考えさせて貰えた」という参加者からの話もあり、亡くなった方のご冥福、行方不明の方の一日も早い発見を祈り、黙祷を捧げて閉会しました。